

WORK  
労働

知事対談

労働を「朗働」に  
働く人々の一層の幸せを目指して



入院の説明も笑顔で……。緒方さんの仕事の一コマ。

働き続けたい女性に働ける  
環境づくり

——四月に育児休業法が施行

緒方 はい。看護婦を選んだ時に、一生続けられる仕事と思って決めたので、なるべくやめたくないという思いがありました。夫も仕事に大変理解があったので復帰できたと思っています。育児休業中は無給ですが、ベースアップや定期昇給には影響を及ぼさないとのこと、一年間の育児休業をとったのです。

知事 女性も、自分が持っている能力を社会のために大いに使い、社会参加することはとても大切なことだと思います。今年四月一日から施行される育児休業法は、両親のどちらかがとれるようになっていきます。ほとんどは女性になるのですが、状況によつては選択できるようにということです。だから単に女性だけの話ではないけれど、育児休業、そして次には介護休業の制度化を考えていかなければならないと思います。そして実際に各企業がやっていただけのような体制を援助していかなければと考えています。

内田 私どもの会社では、昨年の四月から「インプワン制度」というのをスタートさせました。一年を十一月働いて一カ月は連続して休みましようというものです。それは有給休暇や週休二日は当然実施した上で、そういったものを利用して介護や育児に充てるという人もあるいは出てくるかもしれません。

週休二日制導入で変わった  
社員の意識、業績の伸び

知事 私が昨年二月に知事になって最初の県議会の際に、その前年の二月まで労働大臣として労働行政を担当していたこともあり、熊本を労働モデル県にしたいと申し上げました。働く方々の幸せ、そうやってきますと福祉も含めて、労働と福祉の部分では、どこにも負けない県にしたいと思っています。ただ労働という言葉の響きが今の時代に適切なのかな、他に何か良い名前がないかなと思いますね。

橋本 私が社員に言ってきたのは、朗らかな口ウをつけた「朗働」。この朗働ならいいじゃないかと話しあいながらやってきました。

今、働く人のゆとりというものがしきりに言われています。私のところでは十七、八年前にそういうことを考え始めました。それは中小企業の陥りやすい欠点を恩師に指摘されたからです。「同族会社は非常に良い点もあるが、同族本位に物を考えたがるし、井勘定になりかねない。そうすると働く人の力が発揮できない。この点を用心しなさい。君のところに入ってくる皆さんは、親御さんが苦労されて育てられ学校まで出して君の所にやるんだから、親御さんに対して恥ずかしい待遇ができるようになれ。これだけ忘れるなよ」と言われ、大変身にこたえました。これをきっかけに、何とか働きやすく働き甲斐があるようにという方法を考え、話しあった末に、とにかく土曜、日曜休めたら素晴らしいだろう。やってみようということになりました。

WORK

週休二日制を導入されて変化はありましたか。

橋本 それはもう目に見えて。三十八年に法人化して以来の決算書が残っているのて統計を取ってみると、週休二日制を始めるまではどうしても一億円を超えなかった売上げが、導入後すぐ超えたかと思つたらグーッと伸びて六十年には五億円になりました。第一、社員の意識が全然変わつてきました。

知事 緒方さんは育児休暇という長期休暇を利用されたわけですね。



給料格差是正3ヶ年計画実行委員会進捗式で辞命を交付する橋本さん。